

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 2階 秋桜		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者様本位の生活と理念に基づき支援に努めております。日常生活に様々なレクリエーションを取り入れたり、散歩や体操を積極的に行い、個人の身体能力の衰えを最小限におさえられるようにしております。また、日々の生活に役割意識を持っていただける様に役割分担表を作成し、掃除や料理、洗濯などに取り組んでいただいております。そして、利用者様の入居前の生活歴を大切に、その人らしい生活を送って頂ける様に暖かく支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりを大切に、個人らしく生活ができる様に理念に基づいたケアをしている。職員は気付いた事などは、管理者に相談したり、カンファレンスで話し合いをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方による定期的なミニコンサートや月1回の音楽療法、地域の先生による生け花教室などを実施している。また、自治会に加入して地域の神社のお祭りや地蔵盆などに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校で子供達に認知症の講演をし、認知症への理解を促したり、小学生の当ホームへの体験学習を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	より良い運営を目指し、運営推進会議では利用者様の日々の生活や行事などを報告し、意見交換をしている。また、当ホームにて実施している避難訓練などにもご意見を頂いている。運営推進会議は2ヶ月に1度行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加して頂き、様々な情報を提供して頂いている。また、市主催の事業者連絡会にも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の意思を尊重して、自由に行動できるように玄関やエレベーター等に鍵を掛けない様にしている。開放している為、職員が利用者様一人一人の行動を常に把握するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待について自覚と意識を持って職務に就くように、毎月のカンファレンス後の話し合いや施設内研修などを行い、学習したり話し合ったりしている。		

グループホームカスタネット 2階 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は何度かあるが、活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、利用者様及びご家族様に重要事項の説明を十分に行い、ご理解いただいた上で締結していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様の意見に耳を傾けている。またご家族様が来所された際は、直接ご意見やご希望をお伺いしたり、また、定期的にアンケートを行う事で、すべてのご家族様からのご意見等をお伺いしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内で発生する連絡事項等は、連絡ノートに記入し、全職員が必ずチェックし常に情報を共有するようにしている。カンファレンスは代表者や管理者も参加して全員で意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が職務に集中出来るように、一人一人の意見や発想を尊重している。休日も希望休日が取れる様に工夫している。職員同士のコミュニケーションの場として年2回食事会をしている。また、チームワークの徹底を第一に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、共に内外研修に参加し、その内容をカンファレンス等で発表してもらい、研修に参加していない職員にも内容を把握してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、他施設への交換研修や勉強会、協議会主催の運動会などに参加している。平成25年度は11月11日に交換研修を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の話を聞く姿勢、そして受け止めることを普段から大切に、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に面会時に日頃の状況を報告するとともに意見を聞き、話し合い、対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの要望や、利用者様との会話の中で必要と思われるサービスがあった場合、即対応ができる様に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活をともに過ごすことで、お互いに教えあったり、学んだり、支え合う関係を築き、利用者様から得たり、学んだりしたことは全職員で共有して支えられるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、時にはお電話にて利用者様の様子や変化などをお伝えしている。来所の際には談笑やレクリエーションと一緒に楽しめることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客者を居室に案内し、一緒に過ごしていただいている。家族様や知人に電話や手紙の取次ぎを行い、今までの関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・散歩・レクリエーションや家事などへの参加を通じて、利用者様同士の交流の場を設けている。また、テーブル・座席の位置を見直し、皆様が気持ちよく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内でお亡くなりになった方の家族様と1～2年は交流があったりするが、自然となくなる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生け花が得意な方、習字が得意な方、歌が得意な方など個々に合わせて行なっている。困難な場合も利用者様本位の支援を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の訪問時に出来る限りお話をし、利用者様のこれまで生きてこられた過程をお話して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングで一人一人の心身状態を把握し、バイタルチェック、健康状態を記録し、変化にいち早く気付けるよう心がけ、気付きがあれば即対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の面会時やお電話にてコミュニケーションをとり、介護計画に関するご意見をお聞きして、カンファレンスで十分に検討し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、健康管理表を毎日記入している。申し送りや連絡ノートなどで情報を常に共有し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の神社や公園に散歩に出掛けるように心がけている。また、ドライブを兼ねて道の駅に行ったり、スーパーやホームセンターに買物に行ったりしている。		

グループホームカスタネット 2階 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方に現在の要介護状態を報告することで、認定期間の更新に対して素早く対応している。自治会長に運営推進会議に参加して頂いていることで地域の情報が得られやすく、避難訓練への協力も得られやすい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護にて看護師による健康チェックを受けており、毎週金曜日に協力医の往診があり、24時間体制で対応して頂いている。また、入居前のかかりつけ医をそのまま継続で来ることも説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護の中で利用者様の異変や新しい情報から緊急を要すると判断した場合は、管理者・職員間で話し合い、訪問看護師に電話で相談後、訪問してもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたケースでは、定期的に家族様に連絡し、現状を確認したり、お見舞いに伺ったりした。今後の様子について病院関係者に相談するなどの対応をとった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際には、主治医より説明を受けた上で家族様の希望を聞き、職員も含め今後の方針を決める。その後も利用者様の状態変化に合わせて主治医、家族様と相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的カンファレンスの中で事故発生時の対応を職員間で話し合い、事例検討を踏まえてその発生の予防や発生後の対応について話し合い、取り決めを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間と夜間での火災を想定して消防訓練を実施している。 訓練時も地域の方に協力を得ながら連絡網を作成し、直ぐに駆けつけられるよう万全の体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いには十分に気を配っている。特にプライバシーに関わる話をする時はイニシャルを用いて職員間で伝達するなどの工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室の掃除などはご本人が希望する場合、その意思を尊重し、希望を受け入れ見守ったり、お仏壇のお供えをご用意したり、可能な限り要望に応えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、入浴日であっても、ご本人が希望されない場合や拒否がある場合無理せず見守る。外出の際にも拒否が強い場合は希望を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、ご希望の洋服を選んで頂いたり、頭髪を整えたり、着衣に乱れが無いか確認したりして配慮している。また、2ヶ月に1度出張理美容にてカットや毛染めも行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、盛り付けを一緒に行なうなど準備から食事を楽しんで頂いている。また、後片付けも同じ方に偏らないように声かけしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分摂取量などを摂取時に記録し不足分を補ったり、過剰分を控えたりしている。また、体重の変動にも気をつけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し、口腔ケアの支援を行なっている。その際異常があれば、訪問歯科医に連絡している。		

グループホームカスタネット 2階 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方もいらっしゃるが、5名の方は排泄チェック表をつけることにより状況把握している。5名のうち4名は声がけによりトイレ誘導している。1名は立位維持困難で、ご本人の身体的負担も大きいので、ベット上での介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量を記録している。乳製品を積極的に摂取し、毎日体操をしている。便秘のひどい方もおり、腹部マッサージも行なっているが、最終的には薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人ゆっくりと楽しんでいる。拒否がある場合も入浴に関心を持つような声かけをし、楽しんでいただく。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を干し、シーツは定期的に洗濯をして清潔を心がけている。体調がすぐれない方には臥床をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に医師の説明を受け、服薬の変更があった場合は、連絡ノートにて職員間で情報を共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担表に沿って一人一人に日々役割を持った生活をしていただいている。気分転換や楽しみには、買物・生け花・音楽療法や習字・散歩などご本人の希望になるべく沿った楽しみをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・地域のお祭りや行事・花見や芋掘りなど多彩な行事を企画して、季節を感じながら楽しんで頂いている。また、家族様と一緒にお出掛けになる場合もある。		

グループホームカスタネット 2階 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は、なるべく一緒に出掛けるようにしている。スタッフ見守りの中、出来る限りご本人の希望する商品を購入して頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から家族様や知り合いの方に連絡を取りたいとの希望があれば、電話を掛けるサポートをしたり、手紙や葉書なども住所等の記入をお手伝いして、切手を貼ってポストに出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じてエアコン等で空調管理を行なっている。浴室でも秋・冬・春期は脱衣所にも暖房を入れ、浴場との温度差をなくしている。また、夜間は常夜灯のみ点灯し、むやみに照明をつけないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールに大型のソファを設置し、くつろいだり談笑できるスペースを作っている。特に廊下に設置したソファからはベランダ越しに夕日や景色を楽しまれている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談した上で、安心・リラックスして生活出来る居室作りを心がけている。例えば、なじみの家具や仏壇を設置したり、家族様や思い出のある写真や絵を配置したりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	各自お部屋の前に表札をつけ、ご自分の部屋をご自分で認識できるようにしている。トイレや浴室にも同様に表札を出している。また、必要な箇所の手すりを設け、安全面に配慮している。		